

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>進学型総合学科としての特性を活かし、新しい時代に求められる資質・能力を身につけた人物を育成する学校。</p> <p>1 主体的、対話的で深い学びを通し、「確かな学力」を身につけさせる。</p> <p>2 生徒自らが主体性を持って思考し判断し、自分の考えを論理的に表現・発表できる授業を実践する。</p> <p>3 キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢、自己を実現する姿勢を醸成する。</p> <p>4 生徒一人ひとりが個性を輝かせ、多様な人々との違いを認めあい、協働して学び、人間力を高めあいながらともに成長する態度を育成する。</p>
--

2 中期的目標

<p>1 新学習指導要領の理念を踏まえた、生徒の「確かな学力」の育成及び教員の授業力の向上</p> <p>(1) 「生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 「生徒の思考を促す授業」をキーワードに、互見授業や授業公開をより活性化して教員間で授業力を高めあい、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現をめざす。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断における「授業満足度」(平成 30 年度 58.0%)を毎年引き上げ、2021 年度には 75%以上にする。</p> <p>イ ICT の活用に取り組み、生徒の知識の定着を図るとともに生徒が課題意識を持ち自ら解決する姿勢を育てる。</p> <p>ICT を利用して授業を行う教員の割合 2021 年度 50%以上をめざす。</p> <p>2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実</p> <p>(1) 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」等の内容とその成果を吟味し、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。</p> <p>ア 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を核にして、自らの将来をしっかりと考えさせるとともに、論理的に考え、考えをまとめ、自分の言葉で発表する力を身につけさせる。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育に関する充実度」(平成 30 年度 71.0%)を毎年引き上げ、2021 年度には 75%以上にする。</p> <p>(2) ア グローバル人材の育成に資するため、海外修学旅行の推進を継続する。また、国際交流や語学研修を継続し生徒にグローバルな視点や姿勢を身につけさせるとともに、英語を話すことへの生徒の苦手意識を払拭させたい。</p> <p>「海外修学旅行の満足度」に関する生徒向け・保護者向けアンケートにおいて、平成 31 年度以降ともに肯定率 90%以上を維持する。</p> <p>(3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させる。</p> <p>ア 進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させるとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。</p> <p>学校教育自己診断における「進路指導に関する満足度」(平成 30 年度生徒 86.6%保護者 77.1%)を毎年引き上げ、2021 年度には生徒・保護者ともに 70%以上にする。</p> <p>国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、100 名以上をめざすとともに、センター試験出願者数について、100 名以上(平成 30 年度 90 名)をめざす。</p> <p>3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底</p> <p>(1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にすることを徹底する。</p> <p>ア 平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。</p> <p>アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象(それに準ずる事象を含む)発生件数を 0 にする。</p> <p>(2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。</p> <p>ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいをはじめとする配慮を要する生徒等への対応に関する研修を行い、「合理的配慮」を意識して、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。</p> <p>イ より一層、教育相談室や S C の存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与する体制をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。</p> <p>学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」(平成 30 年度生徒 65.2%保護者 62.2%)を毎年引き上げ、2021 年度には生徒・保護者ともに 70%以上にする。</p> <p>(3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるようにするとともに、挨拶・服装等を含め、生徒の生活規律の力を向上させる。</p> <p>ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。</p> <p>年間延べ遅刻者数(平成 30 年度 2061 件)を毎年引き下げ、2021 年度には 1800 件以下にする。</p> <p>イ 挨拶・服装を含め、生徒の生活規律の向上に取り組み、生徒全員が学業に専念できる雰囲気づくりに取り組む。</p> <p>4 広報活動の充実</p> <p>(1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、進学型総合学科としての本校の教育活動を広報するための取組みをさらに強化する。</p> <p>ア 学校案内のリーフレットに加え、広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて継続発行し、中学校等へ配付する。</p> <p>イ 生徒・保護者対象のオープンスクール、中学校や教育産業の教員対象学校説明会の内容の充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。</p> <p>オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計(平成 29 年度約 1,250 名、平成 30 年度約 1,400 名)を、1,400 名以上に保つ。</p> <p>志願倍率(平成 29 年度選抜 1.13 倍、平成 30 年度選抜 1.29 倍、平成 31 年度選抜 1.18 倍、)を、恒常的に 1.20 倍以上に保つ。</p> <p>5 計画的な備品等の更新</p> <p>(1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。</p> <p>6 働き方改革</p> <p>(1) 教職員の時間外勤務の縮減、年休取得を推進する。</p> <p>校内の各会議の所要時間について、50 分以内を目標とする。また、8 月に連続 5 日間の準閉庁日を設け、夏季特休や年休の取得を推進する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>各設問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」の 5 つの選択肢から回答を選ぶ形式でアンケートを実施した。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を「肯定率」として、判断の基準とした。</p> <p>高校生活全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね、「芦間高校に入学して良かった。」と感じているのは喜ばしいことである。特に、3 年生が 2 年次の値より増加していることが特徴的である。一方、1 割程度、否定的な生徒もおりその原因を探り、対応を検討していきたい。 <p>教科・科目の学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業は、分かりやすい」については、生徒、保護者ともに肯定率に変化はない。一方、教員は ICT 機器の活用等、指導方法の工夫、改善を行っていると考えており、その差は大きい。「わかりやすい」かどうかについては、求める学習レベルにもよるが、進路実現に向けて高いレベルの学習内容をわかりやすく伝える工夫が、更に必要と考えられる。 	<p>第 1 回 (R1.07.16)</p> <p>[1] 授業改善に向けての取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく授業を受けてよかった。楽しいことは大切なこと。 授業アンケートの授業満足度は選択科目が多い割には低い。 期待が高ければ満足度は下がる。満足度を分析的にとらえる必要がある。何のためにしているのかということを重視してほしい。 実習系もまじめに取り組んでいる。「英会話」も全体を巻き込んで授業をしていた。消極的な生徒も盛り上げようとしていた。 英語、理科、保健等で ICT を活用している。今年から数学も始めた。 <p>[2] 令和元年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値に振り回されずに分析する必要がある。生徒も自己評価することは大切なこと。働き方改革では職員会議短縮の工夫が必要だと思う。部活動活性化との関連も工夫が必要。 共生推進教室の設置された学校の取り組みとしてきめ細かい理解が必要である。共生以外の生徒にも配慮の必要な生徒がいると思う。そのためにも ICT の活用が必要となる。 わかる授業を充実させることは大切なこと。わかる授業に向けて伝える側が良質のインプットがないと相手をひきつけるわかりやすい授業につながらない。広報についてはスマートフォンに対応することが必要。

- ・家庭学習については、増加したと感じている生徒が半数に満たない状況である。教員は学習時間が増える用の課題を設定しているが、学習状況に反映しない様子がうかがえる。進学型総合学科をめざすうえで結果につながるように改善の必要がある。
- 科目選択について
- ・「きめ細かい科目選択指導」については、学年ともに肯定率が下がっている。芦間高校の選択指導は、進路決定に必要な科目を第一に考えているが、生徒の希望はそうではない場合が多いようである。生徒とよく話し合っただけで納得できるような選択になるように努めたい。
- 進路指導やキャリア教育について
- ・「進路指導について考える機会」の肯定率はおおむね例年の通り、肯定的意見が高く問題はない。この状況を維持していくことが大事である。
- ・「キャリア教育」についても、おおむね例年通りの結果であるが、2年保護者の肯定率が+19.2ポイントと大きく増加している。
- 昨年、1年生の「産業社会と人間」の授業内容を整理したが、来年度以降も継続して実施していくことで肯定率80%をめざしたい。ジョブカバリー ピアサポート 未来のミカタ の流れは今後も継続していく。また、2年生の「総学論文」は「進達探究」に切り替わる関係で、来年度以降の授業内容を一部変更する可能性が高い。
- 生徒指導、教育相談、人権教育等について
- ・「生徒指導の方針は理解できる。」の生徒の肯定率45.2%で数値だけを見ると高いとは言えないが、生徒指導という性質上やむを得ないと考える。また、現在の生徒指導方針は落ち着いた学習環境を構築する上で最低限の方針だと考える。ただ、生徒も変化して否定率が増加しているため、頭ごなしの指導ではなく指導の必要性をしっかりと説明し理解させることが肝要である。
- ・「学校行事」については生徒、保護者ともに90%近い肯定率を得ており、今後ともこの水準を維持したい。
- ・芦間高校の中に、相談室や保健室という「相談できる場所」があることを「知っている」とする生徒が、平成30年度には65.2%で、令和元年は54.2%と減少している。特に1年生の減少率が大きい。全体としての生徒の認知率は下がっているが、保健室もカウンセリング室も、生徒の相談・不定愁訴などをうけるのに大変忙しく、決して「開店休業」の状態ではない。カウンセリング室に関して言えば、「昼休みに教室にいづらい」「昼食をとる場所がない」などの理由で、利用する生徒も多く、来室者の数はむしろふえている。おそらくは、「かなり強い不安やいづらさを感じている生徒」が継続的に利用し、他の生徒はあまり注意をはらっていないのではないかと考える。
- ・「いじめ対応」に関しては、肯定率は高くはないが否定的な意見も少ない。「わからない」が最も多いのはいじめに直面することがあまりないからであるとも考えることもできる。しかしながら、見えないところで起こっている可能性もあり、日頃の指導により、生徒の意識を高め、未然に防ぐことで、否定的な意見を0に近づけるように努力したい。
- 働き方改革について
- ・社会全体で働き方改革が求められる中、本校においても夏期閉庁日を8月中旬に1週間設け、また、週1日極力超過勤務をしない全校一斉退庁日を設けている。ここ数年、超過勤務の平均、人数ともに減少しており、一定の成果がみられる。

- ・遅刻について保護者説明会の際に「将来にかかわること」であることを説明する必要がある。
- ・子どもたちが事故の被害者にも加害者にもなることがある。通学路の安全確保が必要。事故に巻き込まれないためにも生活規律の向上、遅刻の改善が必要。教養科目もアピールしてもいいと思う。心のバリアフリー化は進んでいないので力を入れてほしい。

第2回(R1.11.16)

[1] 第2回オープンスクールについて

- ・出迎えから生徒が主体となっていることがよくわかりてよかった。
- ・クラブ紹介は今回はビデオでの紹介だったが、以前のように直接出てきて説明のほうがよく伝わるように思う。
- ・公立には公立の良さがある。生徒が手作りでやっていることを伝えられればいい。生徒が作ったプリントは生徒目線で有効なものだと思う。
- ・パワポで生徒が紹介したものがまとめられたプリントを配ってもいいのではないかと。
- ・保護者説明会では総合学科がどのようなものかということがよく分かった。中学校の先生もわかっているようでよくわかっていないと思う。

[2] 令和元年度学校経営計画の進捗状況について

- ・授業の質を上げるには授業アンケートだけではなく、外部との関係も必要になる。
- ・クラブ活動は充実しているように思う。学校はクラブと学習のバランスが大切である。本校はバランスが取れているように思う。
- ・働き方改革については本来時間をかけなければいけない業務はカットできないので、本来業務でない時間をどう絞るかが大切である。かつて、教務補助というものがあったが、復活させれば改善されると思う。保護者のボランティアなどは活用できないものか。
- ・大学入試制度が大きく変わろうとしているが、ちゃんとしていけば生徒が変わっても結果につながる。センター試験の志願者が増えているのは、意識の向上につながっているということ。

第3回(R2.2.15)

[1] 令和元年度学校評価について

- ・授業アンケートや勉強アンケートの結果から予習・復習をしてきていない点に気になる。遅刻も学びに向かう姿勢のパロメータになる。学校に来て、朝から頑張るモチベーションを高めるように、遅刻の件数を少なくするほうがいい。
- ・進路指導の満足度については十分高い水準になっている。難関・中堅私立大学の合格状況については他校と比較される基準になっているので結果が求められる。
- ・遅刻の回数を減らすには保護者の協力が必要である。高校生になると生徒に任せきりになる保護者も多いのではないかと。
- ・他校と比較されるところがあるが、学校の雰囲気、信頼については生徒より保護者が敏感である。風紀、遅刻、挨拶の部分を自信をもって押せることが大事である。
- ・授業改善については、人を育てるという立場に立って、先生が一枚岩になって改善を進めなければならない。少人数授業も効果があるという共通認識が必要である。
- いじめ防止については、いじめを0にするというより、いじめはあるものだという認識に立って、解決に力を入れるべきである。

[2] 令和2年度学校経営計画について

- ・すべてのことをするに越したことはないが、優先順位を決めて、特に重点を置く項目を決めておくほうがいい。芦間高校の強みを伸ばすことが重要。
- ・家庭での学習時間の充実の問題点は、「学びに向かう力」がないと難しい。塾に行っても「やらされ感」でやっているとうり向上しない。
- ・いじめについては理解するだけではなく行動することが大切である。いじめは必ずあるものだと考えたうえで行動することで止めることができる。
- ・遅刻の対策として、他校では保護者が子どもたちの前で話をしているところがあった。遅刻というのはお金にもかかわること、信頼も失うということを理解させることが必要である。
- ・授業に影響のないSHR時の遅刻が多い。自転車通学が多いので急ぐことで自転車事故につながることを恐れている。時間に余裕をもって登校してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 新学習指導要領の理念を踏まえた生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上</p>	<p>(1) 管理職と教員が一体となり授業改善に取り組む。 ア 研究授業や校内研修による授業改善の推進、授業アンケートを活用した授業改善の取組の実施、ICT利用促進 (2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組の推進 ア データ分析から効果的な取組を策定する。</p>	<p>(1) ア・授業力向上に関する校内研修を実施するとともに、互見授業を一層活性化し、教員が授業改善に向けてより気軽に相談し合える雰囲気醸成する。 ・各教科が、「わかる授業」「生徒の思考を促す授業」をテーマとした研究授業に取り組む。また、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、解決のための改善策を策定する。さらに、ICT利用拡大に取り組む。 ・管理職は授業観察の結果を教員にフィードバックし、「わかる授業」確立のための指導助言を行う。 (2) ・家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組を引き続き検討する。 ア・外部の「学力生活実態調査」を実施・分析し生徒の家庭学習時間増へつなげる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)における「授業満足度」60%以上(平成30年度58%) ・第2回授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る授業(常勤のみ)の延べ講座数40講座以下(平成30年度47講座) ・第2回授業アンケートの「質問項目3~9の評価の平均値」の全教員平均3.2以上(平成30年度3.2) ・ICT利用教員50%以上。 ・管理職による授業見学2回以上 (2) ア・学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する項目」の肯定率の平均55%以上(平成30年度51%)</p>	<p>(1) ア・「授業満足度」56%() ・第2回授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る講座数(常勤のみ)56講座() ・第2回授業アンケートの「質問項目3~9の評価の平均値」の全教員平均3.1() ・ICT利用教員45%() ・管理職による授業見学1回() (2) ア・「家庭での学習時間の充実に関する項目」の肯定率の平均44%。()</p>
<p>2 夢と志を育むためのキャリア教育及び進路指導の充実</p>	<p>(1) キャリア教育の充実 ア より一層効果のある全体指導計画の検討・再構築 イ グローバル人材育成 (2) 科目選択ガイダンス機能の充実 ア 丁寧な選択指導 (3) 進路指導の全体計画の充実 ア 進路指導の全体計画の充実 イ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現 (4) 生徒の人間的成長 ア 部活動参加促進</p>	<p>(1) ア・「産社」「総学」のより一層効果のある全体指導計画を検討し再構築する。 イ・平成30年度以降入学生について、海外修学旅行や国際交流の推進を継続する。 (2) ア・科目選択の指導において、教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、生徒や保護者が満足するよう、丁寧に指導する。 (3) ア・確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。 イ・進路指導システム「ASMサポートシステム」をより一層充実させる。 (4) ア・人間力を高めるため、部活動参加を促す。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)における「キャリア教育の充実」の肯定率の平均75%以上(平成30年度71.0%) イ・「海外修学旅行の満足度」95%以上。(平成30年度98%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率60%以上(平成30年度57.5%) (3) ア・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒・保護者ともに88%以上(平成30年度生徒86.6%保護者77.1%) イ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計が100名以上。 ・センター試験出願者数が100名以上。 (4) ア・新入学生徒の「部活動への加入率」85%以上(平成30年度83.0%)</p>	<p>(1) ア・「キャリア教育の充実」の肯定率の平均72%() イ・「海外修学旅行の満足度」94%。() (2) ア・「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率60%。() (3) ア・「進路指導の満足度」生徒・保護者ともに生徒89%保護者78%。() イ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計86名() ・センター試験出願者数115名() (4) ア・新入学生徒の「部活動への加入率」86%()</p>
<p>3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドの徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底</p>	<p>(1) 生命や人権を守る精神の徹底 ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営 (2) カウンセリングマインドの徹底 ア 「合理的配慮」を意識したきめ細かい対応 イ 相談室の存在の周知等、教育相談機能全般の充実 (3) 生活規律力の向上 ア 遅刻減少等生徒の生活規律・自己管理の力の向上</p>	<p>(1) ア・平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 (2) ア・校内研修を行い、「合理的配慮」を意識して、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。 イ・より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。 (3) ア・遅刻、挨拶、服装など、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・人権推進委と教育相談係とで連携し、生徒向け研修、教員向け研修を1回以上実施。 (2) ア・校内研修を1回以上実施。(平成30年度1回) ・特別支援教育委員会の機能を充実させ、年間5回以上会議を開催。(平成30年度7回) イ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒・保護者ともに68.0%以上(平成30年度生徒65.2%保護者50.6%) (3)ア・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組の実施。 ・年間延べ遅刻者数2,000件以下(平成30年度2,061件)</p>	<p>(1) ア・生徒向け研修10/3障がい理解() 教員向け研修10/16保護者対応実施() (2) ア・校内研修1回() ・特別支援教育委員会7回開催。() イ・「教育相談機能の充実度」生徒・保護者ともに生徒54%保護者52%() (3)ア・生徒会を中心に遅刻減少の取組「おはよう運動」を1,2学期にそれぞれ5日間実施。() ・2,076件()</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>(1) 広報の強化 ア 広報誌発刊 イ 説明会の充実 ウ HPでタイムリーなニュースの提供</p>	<p>(1) ア・広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて継続発刊する。 イ・オープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の説明会の内容を充実する。 ウ・常に最新の情報をHP上で提供し、芦間高校への関心を高める。</p>	<p>(1) ア・「芦間ニュース」の発刊。 イ・オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計1,400名以上(平成30年度約1,400名)ならびに参加者の肯定的回答98%以上。(平成30年度100%) ウ・入学者アンケートでのHP閲覧率90%</p>	<p>(1) ア・「芦間ニュース」年1回発刊() イ・オープンスクール、学校説明会参加者数約1,400名、参加者の肯定的回答99%() ウ・入学者アンケートでのHP閲覧率89%()</p>
<p>6 働き方改革</p>	<p>(1) 教職員の時間外労働縮減、年休取得促進</p>	<p>(1) ア・校内の各会議を50分以内職員会議は60分以内とする。 イ・8月のお盆期間中を準閉庁日とする。</p>	<p>(1) ア・職員会議での達成率60%。 イ・期間中の休暇取得率90%。</p>	<p>(1) ア・職員会議での達成率18%(11回中2回)平均75.6分。() イ・期間中の休暇取得率99%()</p>